



- 目 人と仕事
- 火 生活とマネー
- 水 いま、はやりもの
- 木 いきいき関西

金曜日  
FRI

リフレッシュ

生活習慣病などをまぎまぎな病気を予防して、元気に老いるためのアンチエイジングドックが全国各地で次々と誕生している。国民医療費削減にも奮与すると期待されているアンチエイジングドックとは。アンチエイジングドック開設を支援しているのは京都府立医科大学内科学教室の吉川敏一教授がベントチャー企業として二〇〇二年に設立したバイオメーカーサイエンス社（大阪市中央区、西川浩司社長）。同社の目的の一つであるバイオメーカーによる疾病予防の事業の一つとしてアンチエイジングドック支援を打ち出した。

アンチエイジングドック

吉川教授は「アンチエイジングドックは病気の早期発見、早期治療をする人間ドックと違い、一人一人の体の状態を調べて、病気にならないように指導していくので」と指摘する。もう少し、説明を付け加える。アンチエイジングドックは人間ドックのように基本的に病気を

見つげるためのものではない。加齢は子どもものころから始まっているので、ドックの対象者も高齢者だけではない。若い人でもその人の体を調べて、その人の体が病的に年をとっていないかどうかを評価する。その評価に基づき、食事や運動療法などをアドバイスして、健康な状態に戻して、元気に

年をとっていかどうかを評価する。その評価に基づき、食事や運動療法などをアドバイスして、健康な状態に戻して、元気に

血管年齢▽筋年齢▽神

老化を防ぎ、元気に老いる



これらを検査から吉川教授ら老化研究の専門家が総合



イラスト・篠原ユキオ

経年齢▽ホルモン年齢の五つの項目をチェックする。さらに、ドックの一番の特長は細胞やDNAを傷つけ老化を促進するフリーラジカル（活性酸素などの物質を酸化させる分子）による体のダメージの検査。フリーラジカルによる損傷は酸化ストレスと呼ばれ、多くの指標があるが、これまで臨床的に検査することはあまりなかった。酸化ストレスが強ければ、病気になるやすかったり、老化が進んでいたりすると判断できる。

また、食事からだけではとりにくい成分については、積極的にサプリメントを利用していく。さらに、スポーツクラブで格安に抗加齢運動プログラムを行えるようにもしていくという。

吉川教授は「ドックを普及させ、高齢者はいるが、老人はいない日本。すなわち、死ぬまで健康に生活できる、『ピンピンころり』社会づくりを目指します」と、意欲を見せている。

（医療ジャーナリスト 渡辺 勉）